

山口県医師会報

発行所 山口県医師会
〒 753-0811 山口市大字吉敷 3325-1
TEL 083-922-2510
編集発行人 藤井康宏
印刷所 大村印刷株式会社
定価 220 円（会員は会費に含め徴収）

平成 14 年 6 月 11 日号 No 1646



ヒメジオン

尼崎 辰彦 撮

平成 14 年度乳幼児保健委員会	4 6 8
理事会	4 7 4
第 15 回大島医学会を終えて	4 7 7
春季県ドクターズテニス大会	4 7 8

日医 F A X ニュースから	4 7 9
お知らせ・ご案内	4 7 6 ~ 4 8 0

ホームページ <http://www.yamaguchi.med.or.jp>
メールアドレス info@yamaguchi.med.or.jp

平成 14 年度乳幼児保健委員会

と き 5 月 9 日 (木)

ところ 山口県医師会 6 階会議室

理 事 濱本 史明

協議事項

1. 乳幼児予防接種の広域化について

木下常任理事から乳幼児予防接種の広域化について、これまでの経緯について説明があった。

これに関しては以前から要望として議論に上がっていたが、13 年 10 月 4 日の都市妊産婦・乳幼児保健担当理事協議会で提案された。13 年 11 月 29 日の都市医師会長会議で、柳井医師会から予防接種料金の地域ごと、あるいは医療圏ごとの標準化、また県医師会としての予防接種の料金の算定方式を明示してほしいとの要望があった。

まず都市医師会について、広域化に関してのアンケートを行った。これによると考えの濃淡は存在するが、おおむね賛同のお考えをいただいている。予定としては、本年度に具体案をまとめ整備し、15 年からの実施を目標とする事業計画が掲げられている。

14 年 2 月 7 日に予防接種広域化・県執行部案が作成された。また、本年度中・四国医師会連合総会、地域医療分科会で議案として提出し、予防接種広域化に関しての各県医師会のご意見を伺う予定である。

都市医師会予防接種広域化推進担当者名簿が作成され、これから担当の先生方に行政との折衝をお願いして、6 月 13 日の第 1 回予防接種広域化推進協議会で、行政の意見も参考にして協議を行う予定である。

以下、予防接種広域化対策・県医師会案に関して各先生方のご意見をお聞きした。

乳幼児予防接種について（65 歳以上のインフルエンザを含む）、広域でできる条件としては、①かかりつけ医が他の市町村にいる者 ②やむを得ない事情により接種機会を逃した者として、大きく二つに分けたほうがよいのではないかと。安全確保のための立場として、厚労省は予防接種は個別接種を推奨している。

他の市町村からの住民であるか否かの確認は、まずかかりつけ医で予防接種を行うことから考えるとあまり問題となった例はない。また、母子手帳・健康保険証などの確認で、特に問題は生じないだろう。

対象となる予防接種については、DPT（三種混合）、麻疹、風疹、日本脳炎、ツ反、BCG、の 5 種の乳幼児予防接種、高齢者（65 才以上）へのインフルエンザ予防接種とするが、乳幼児のポリオ、児童生徒の日本脳炎、DT、風疹（平成 15

出席者

委 員 藤 本 誠
鈴木 英太郎
富 田 茂
神 田 亨
山口 洋一郎
大 淵 典 子

萩 健 康 砂 川 博 史
福祉センター
ター所長

会 長 藤 井 康 宏
副 会 長 柏 村 皓 一
常 任 理 事 木 下 敬 介
藤 野 俊 夫
理 事 濱 本 史 明
西 村 公 一

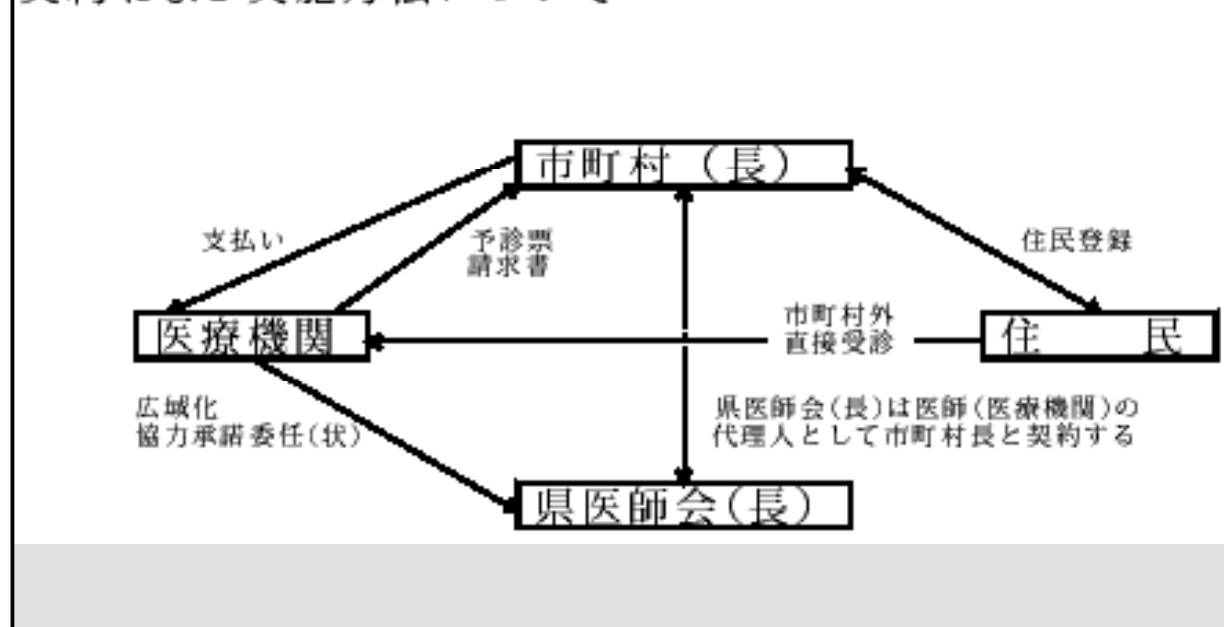
年 9 月 30 日で終了)、BCG (中止になる可能性が高い) を各市町村の体制が整い次第、順次この制度に追加していきたい。また、行政が許可をしてくれれば、現在一部の地域で個別接種を行っている乳幼児のポリオ、児童生徒の日本脳炎、DT、等は県下全域同時進行ではなくても、可能な地域だけでもこの制度に追加して広域化を可能にしていきたい。

委託料については、県下統一にすることが望ましいと思うが、多くの問題を含んでいるのでここでの解決は無理であろう。新潟県では予防接種の広域化について、料金の統一化を画策しているがうまくいっていない。現時点では、当該接種者が

住居している市町村が設定している接種委託料金で請求する。集団接種を行っている市町村にお願いし、市町村外での接種料金を設定していただく(集団接種がすべて個別化になるのが理想だが)。

契約及び実施方法に関しては以下の図式を参考にしていきたい。現在、長門市医師会や下関市医師会のように市町村への請求を、郡市医師会が代行して行い、事務経費が郡市医師会に入る方法に関して協議されたが、これも長短あり、現在行っている請求方式を特に変えることなく、契約は県医師会長と行っていたいただくのがよいだろうという意見であった。

契約および実施方法について



契約の形態は、各市町村長と広域化接種協力医師の代理人たる県医師会長との間に交わすものであり、健康被害が生じた場合の協定を含む。毎年度 4 月 1 日付けで更新し、毎年各郡市医師会経由で接種協力医名簿を更新し各市町村に配付する。各市町村は、毎年、予防接種委託料料金表を県医師会へ提出し、県医師会は接種料金を会員へ通達する。

使用する様式は、現在使用している問診票がなくなり次第、県下統一の問診票に変更していただきたい。これに関しては、現在も内容的には大きな差はなく問題はないであろう。

県小児科医会の神田会長より小児科医会も県医師会の広域化に関して、ぜひ積極的に協力したいとの申し出があった。

次ページに、今までの経緯と
今後の予定を記載する。

2. 園医の組織化について

この問題も今までの懸案であったがなかなか実現しない。県医師会として園医を把握して、保育園・幼稚園の問題を統合し、協議会を開催し問題解決を行うシステムの構築の是非を伺った。

予防接種広域化対策对外協力要請状況

○県、市長会・町村会関係

- 3 月 22 日 健康増進課長へ説明・要請。(事務局)
- 3 月 26 日 県市長会会長宛文書による協力要請。(山医発第 707 号 3 月 26 日付)
- 3 月 27 日 県町村会会長宛 同上。(山医発第 707 号 3 月 26 日付)
- 4 月 5 日 健康福祉部長宛 同上。(山医発第 11 号 4 月 5 日付)
- 4 月 16 日 藤井会長、河内山県市長会会長を訪問要請。(柳井市役所)
- 4 月 18 日 県健康増進課と県医役員との協議。
- 4 月 24 日 県市長会総会 一全市が統一化に了承一
- 4 月 24 日 藤井会長、木下常任理事、中本県町村会会長と面談要請。
- 5 月 24 日 県町村会総会一全市町村が統一化に了承一

○郡市医師会関係

- 4 月 12 日 予防接種広域化推進協議会郡市担当役員選任依頼 (山医発第 20 号 4 月 12 日付)
4 月 30 日まで回答
- 5 月 10 日 各郡市医師会長・担当理事宛に第 1 回予防接種広域化推進協議会開催通知発送。
(山医発第 111 号 5 月 10 日付)

予定会議

- 6 月 13 日 第 1 回予防接種広域化推進協議会
- 7 月 4 日 第 2 回予防接種広域化推進協議会
- 9 月 12 日 第 3 回予防接種広域化推進協議会

現在、園医部会を構成されている下関市医師会の山口先生より、現状の説明をいただいた。

4 年前に園医の組織化を行った。幼稚園・保育園を含め下関市医師会圏内には 81 園があり、園医部会の中の乳幼児保健協議会を作り、問題点を委員会で集約協議し園医部会に提出する 2 段階方法をとっている。

具体的には健診の評価を行い、下関 3 地区のサーベランスを作成し、園医に報告の後、各園に連絡をしている。しかし、まだ温度差があり、医師の中にも園側にも協力的でない所もある。回数は協議会が年 2 回、園長先生を集めた意見交換会が 1 回、園医研修会が 1 回予定されている。公立の保育園・幼稚園は比較的協力的であるが、私立の園は独自の方針などがあり参加が少ない。それと大事なことは郡市医師会が関与することで

あり、費用の面を含み医師会の下部組織であることと、医師会主催の協議会であることが大事である。現在この部会が活動しているのは県内では下関市医師会だけである。

その他の意見。

現在では私立の園医を決定する時に、郡市医師会を通さずに園側から直接医師に依頼がいく場合が多いが、できれば郡市医師会を通して決定できるように、県医師会から指導をしていただきたい。

県小児科医会として園医の資質を向上させるために園医部会を作り、各地域によって園医・保育園・幼稚園で協議を行い、問題の解決に向けて努力していく。

県全域を網羅することは少し難しいと思うので、まず郡市医師会単位で園医部会を作り、活動を開始して、ある程度まとまった地域から少しずつ

つ連携を深め、最終的に県全体の園医部会としての組織ができあがるのが理想である。

3. プレネイタル・ビジット(出生前小児保健指導)事業について

現在県内でプレネイタル・ビジットを行っているのが山口市、下関市で、ペリネイタル・ビジットを行っているのが小郡町である。このモデル事業は平成 4 年に開始されたが、その後持続して行われている自治体は少ない。今回も日医が全国でモデル事業として行った結果の報告を県医師会報 No.1639 号に報告した。

いまだに全国的に新生児(生後 1 ヶ月以内)を小児科医が健診している自治体は少ない。小児科医が乳児の健診を行う時、3～4 ヶ月からでは遅すぎる。母親の育児・疾病に関する不安や質問も数多くあり、この時期に小児科医が積極的に関与できる体制を、構築できないだろうかという考えで、委員の先生方のご意見を伺った。

産科の先生の紹介がなければプレネイタル・ビジットは動いて行かないということ、妊婦さんの育児不安はいったい何なのかという事がはっきり分からない。初産だから総て不安であるだろうし、聞くほうの立場でも、教える医師の方も暗中模索で行わなければならない。

小児科医がどういう説明をしたらよいか問題であり、育児のテクニックを教える事ではなく、産科の先生が行っている説明を小児科医が行っても同じ事を話すだけであまり意味がない。下関での受診率は平成 9 年度～12 年度で平均すると約 46%である。具体的に説明する保健指導内容は、他医師会と差はないが、他に、人間を形成する脳の発達、児童心理学からみた社会性の発達、親の過保護な養育態度などもとりあげている。小児科医からのメッセージとして、子育ては should よりも wish 楽しみながら子育てを、子育てに迷ったら気軽に相談を、母乳で育てたいお母さんへ、だっこは成長のもと、赤ちゃんの突然死(乳幼児突然死症候群 SIDS) 予防のために、等の説明を行う。また、出生前小児保健指導事業のご案内に、「子どものようすが気になるとき、困った時の相談場所」として、①お母さんの話し相手が欲しい ②発達が気になる、ことばが遅い、行動が

気になる ③子育てに対する不安、心の問題 ④虐待しているようだ、虐待しそうになる ⑤子育てサークル、親の会 ⑥母親が働いているが、子どもが病気の時みてくれるところがない、等の紹介システムを構成している。また、妊婦さんへ説明を行う時、実際の乳児健診を見ていただき、あかちゃんに触れて、そしてだっこしてもらう。その時に健診内容や予防接種等の説明も同時に聞いていただく。できればその時点で先輩おかあさんの話も聞いていただければ、妊婦さんの出産後の育児に対する不安や、疑問点等が随分軽減されるのではないかと。

なぜ受診率が低いかということは、妊婦さんが行動しないことにつきる。産科の立場としてよい事業だからと勧めても行動しない。しかし、言い続けなければこの事業は衰退していくのみであるから、小児科医への紹介は持続して行きたい。産婦人科医のこの事業に対する意識の問題もある。

日赤では、受診率は段々増加してきているし、里帰り出産の方で有料でも受診したいというお母さんもいる。

病院の中では比較的受診率が高いが、問題は開業医の中でどのくらい受診率が増加するかである。とにかく産婦人科が強力に受診を勧めることが大事である。

この事業の目的は、出生前からかかりつけ医を決めることであるが、できれば、出生後 2 週間前後で診察をしたい。1 ヶ月健診では遅すぎるので、制度化するなら生後 2 週間前後の健診として取り入れてほしい。

以上のような意見がでたが、最後に昨年の姫路市医師会・菅野禎夫先生発表の中で、「本事業のさらなる推進を図るには」を記載する。

▶▶ 次ページへ続く ▶▶

Ⅰ 産婦人科医の妊婦に対する説得がもっとも効果的である。この事業推進には産婦人科医の理解・協力が基本であって、小児科医に対してまず紹介状を書いて受診させることが必要である。

Ⅱ 妊婦が直接小児科医を受診するルートも採用してみたが、あまり効果を挙げていない。しかし、啓発の仕方によってはかなり有望と考えられる。

Ⅲ 小児科医は妊婦の受診が意外に少なかったことに戸惑いを感じているが、たとえ少数でも受診した妊婦が本当に良かったと思うような対応を心懸けるべきである。

Ⅳ 行政は母子保健手帳交付時、公報、ポスター、ケーブルテレビなど種々な機会、手段を活用し、この事業の啓発に努力することが必要である。

特に母親学級での指導は有効と考える。

Ⅴ 妊娠中の小児科受診を制度化する。いずれ健康保険の点数化など可能となるならば、この事業推進にもっとも有効、効果的と考える。

萩圏域の小児診療の実態

山口県萩健康福祉センター所長 砂川 博史

本日は萩の実情を聞いていただく時間を取っていただきまして誠にありがとうございます。下の表は、各市町村の保健センターの担当者から状況を聴取した結果を纏めたものです。

まず夜間休日の欄を注目していただきます。管内でもっとも医者が多い萩市ですが、夜間休日には市民病院を多くの子供たちが利用しております。また特殊疾患を持っている場合は、山口日赤や長門総合病院にかかっているようです。また圏域の東の端にあります田万川町の場合は、ほとんどの場合が益田日赤の救急外来を受診するか、かかりつけ医に電話をして、うまくゆけば診てもらえるようです。その隣の須佐町もほとんど状況は同じです。阿武町は、萩市に隣接しておりますが、重症の救急患者の場合は、約 1 時間半の行程ですが山口日赤を受診しております。そのほかにも

S 外科医院や福賀診療所も利用しております。旭村につきましては地域の特性上、山口日赤を利用することが多いと聞いております。またかかりつけ医の欄を見ていただきますとお分かりいただけるように、子供達のかかりつけ医が小児科医ばかりではないという状況が見て取れます。

以上のような現状を見ますと、「子供を診るのはすべて小児科医が望ましい」という大原則を否定はしませんが、北浦や萩管内のような所ではこの原則はほとんど夢物語といえます。さらに、新たな小児科の開業や病院小児科の開設、既存施設への増員などは、近い将来を含めてもきわめて望み薄でございます。このような実態を萩市医師会も重々ご承知で、ある内科系の会員から、萩圏域医療対策協議会の席で「自分たちも見ようか」という提案を、実はいただきました。八方塞の状況

の中では、現実的な解決策の一つとして重要な提案ではないかと考え、現在、各関係方面と相談をしながら具体的な進め方を検討している状況でござ

います。よろしくご支援のほどお願い申し上げます。

	かかりつけ医	夜間休日
萩市保健センター	予防接種の実施状況から考えると、かかりつけ医の把握は可能で I 小児科が多くを占める。	市民病院、中には家庭医 (F、Y、H 医院) にかかる人もある。特殊疾患を持っている人の場合は山口日赤や長門総合病院にかかる。
田万川町保健センター	益田市内の小児科 (4 軒)、益田赤十字病院、M 小児科。	益田赤十字病院救急外来、かかりつけ医に電話連絡してみる。怪我などでは町内の外科にかかる事もある。
須佐町保健センター	益田市内の N 医院、益田赤十字病院 (車で 25 ～ 30 分。渋滞してもせいぜい 40 分で行ける)。萩市内の I 小児科。	益田赤十字病院救急外来
阿武町	赤ちゃんの場合には T 病院や、I 小児科。小学生になると S 外科医院や福賀診療所を利用している。両医師とも乳児健診では母子センターに出務する。	救急重症では山口日赤を利用 (1 時間半の行程)。夜間休日には S 外科医院や福賀診療所を利用。
旭村	佐々並地区は山口市内各医院 (N 小児科、日赤小児科)、明木地区は I 小児科や山口市内の一部医院を受診。	山口日赤
福栄村	萩市内の I 小児科が多い。ちょっとしたことは診療所にかかる。山口日赤小児科は年 4 回の乳児健診に出務してもらっていることから日赤にかかっている人もいる。	萩市内の当番医
むつみ村	萩市内の I 小児科が多い むつみ診療所 T 病院小児科 萩市内の F 内科	萩市内の当番医
川上村	診療所が 6 割で保育園の送り迎えのついでにかかっているようだ。 市民病院 萩市内の I 小児科	診療所医師・看護婦の自宅に直接電話 萩市内の当番医や救急病院 山口日赤がかかりつけの場合は山口日赤



禁忌 (次の患者には投与しないこと)
●本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

規定用量
ロイコトリエン受容体拮抗剤
気管支喘息治療剤

キプレス錠 10
キプレス チュアブル錠 5
KIPRES Tablets KIPRES Chewable Tablets

(一錠当りはモンテルカストロピウム)
商品名:キプレス
(株) 杏林製薬株式会社
〒100-0001 東京都千代田区千代田 2-2-1
TEL:03-5561-3111 FAX:03-5561-3112

理事会 第 4 回

と き 5 月 23 日 午後 7 時～9 時

ひ と 藤井会長、柏村・藤原両副会長、上田専務理事、東・木下・小田・藤野・山本各常任理事、井上・吉本・三浦・廣中・濱本・佐々木・津田・西村各理事、末兼・青柳・小田各監事

■議決事項■

1 県医会費減免申請について

98 件申請。84 名を減免適用とし、14 名については規定の要件を満たしていないため減免対象外とした。

■協議事項■

1 郡市医師会勤務医の会費・入会金等調査票について

勤務医の会費等について実情把握のため、郡市医師会を対象にアンケート調査を行う。

2 郡市医師会長会議について

議題について協議。

■人事事項■

1 山口県国民健康保険診療報酬審査委員会委員の推薦について

5 月 31 日付で辞任される徳長雄幸氏の後任として、三浦修氏を推薦。

■報告事項■

1 乳幼児保健委員会 (5 月 9 日)

乳幼児予防接種広域化の案について検討した。今後、さらに検討を加えていく。

詳細は、本号記事を参照。(濱本)

2 勤務医部会理事会 (5 月 11 日)

平成 14 年度全国医師会勤務医部会連絡協議会開催要領 (10 月 26 日開催) について説明。

シンポジウムでは、県内 5 病院の先生方をシンポジストとして招く。テーマは“医療改革に対して勤務医と各病院はどのように対応すべきか”。(三浦)

3 保険医協会との懇談会 (5 月 11 日)

今回の点数改正における対応について、それぞれのスタンスの確認。(山本)

4 生涯研修セミナー (5 月 12 日)

出席者 221 名。(三浦)

5 防府地区保険ミーティング (5 月 13 日)

防府医師会館にて開催。会員 35 名、医療事務関係者 116 名の合計 151 名が参加した。事務職の参加が多かったため質問集の説明が主となった。(三浦)

6 山口大学医学部オリエンテーション (5 月 14 日)

過去の紛争事例を交え、医事法制・医事紛争の報告と説明を行った。また、これに関連して、日本医師会医師賠償責任保険の必要性を説明した。(東)

7 山口大学医学部研修医との懇談会 (5 月 14 日)

医師会事業の説明を行った。(三浦)

8 日医役員就任披露 (5 月 14 日)

帝国ホテルにおいて新役員の就任祝いが行われ、山口県選出の安倍・林・河村各代議士も出席された。(藤井)

9 山口社会保険事務局、国保医療指導室、厚政課との打合せ (5 月 16 日)

集団指導は、平成 12・13 年度に欠席の医療機関及び全勤務医を対象として実施。新規指定保険医療機関等の集団・個別指導は 10 月 13 日 (日)。個別指導は 6 地区において行う。

なお、選定基準は昨年と同様。

また、生活保護法に基づく指定医療機関の個別

指導等についても協議した。(山本)

10 保険委員会(5月16日)

平成 14 年度個別指導計画について協議した。
(山本)

11 地域医療計画委員会(5月16日)

山口県救急医療情報システムの進捗状況、現行システムの問題点、新システムの変更点について県医務課の高橋調査監から説明が行われた。当システムでは、70 病院程度に端末を設置することとなっている。

医療情報ネットワークの位置づけとしては、中核機能を果たすよう、災害時の救急情報システムを基盤として、遠隔医療システム、へき地医療支援システム、地域リハビリテーション支援システムを統合することとなっている。

また、へき地医療対策、リハビリテーション構想の基本理念について県医務課の古谷主幹から説明が行われた。地域リハビリテーション推進協議会の設置を決定し、へき地医療支援体制の構築では、従来のへき地中核病院、へき地医療支援病院が、へき地医療拠点病院として指定されたと報告があった。

その他、各地区・県全体における地域医療の問題点や課題について意見・提言が行われた。(津田)

12 生涯教育委員会(5月18日)

平成 14 年度の第 80 回生涯研修セミナー等の企画を行った。シンポジウムのテーマは「感染症」。勤務医部会に企画・構成を依頼することとなった。

また、平成 15 年度生涯研修セミナーの企画、平成 16 年度医学会総会について協議した。(三浦)

13 宇部市医師会定時総会(5月19日)(藤井)

14 介護保険研究大会実行委員会(5月20日)

平成 14 年度山口県介護保険研究大会のテーマ及び内容について検討を行った。(佐々木)

15 山口県献血推進協議会(5月21日)

献血量が年々減少している。そのため、今後は高校生・中学生等の若い世代を対象に啓蒙活動を

行うこととした。(藤井)

16 山口県社会福祉事業団理事会(5月21日)

平成 15 年度より導入される障害者支援費支給制度を視野に入れ、社会福祉の向上に努めることとした。(事務局)

17 山口県障害者スポーツ協会設立理事会・評議員会(5月21日)

障害者スポーツの認知を高めること、スポーツを通じて障害者の生活向上を図ることを目的として設置された。(佐々木)

18 徳山地区保険ミーティング(5月21日)

75 名出席。質疑では主傷病名についての質問が相次いだ。(三浦)

19 支払基金幹事会(5月22日)

審査委員の異動 1 件。

電算処理システムについて、中四国各地で説明を行っている。

平成 14 年 4 月分の医科診療報酬支払状況は大幅減となり、対前月比 91.4%、対前年同月比 95.7%となった。(藤井)

20 山口地方社会保険医療協議会部会(5月22日)

新規指定 5 件を承認。(藤原)

21 山口県母子保健対策協議会新生児聴覚検査専門委員会(5月9日)

新生児聴覚検査とそのフォローアップに向けての素案が提出された。また、平成 15 年 3 月 3 日にその報告書を発表するとしている。(藤野)

医師国保理事会 第 4 回

1 全医連第 41 回全体協議会第 1 回開催準備委員会の開催について(5月16日)

本組合担当により開催するため、第 1 回開催準備委員会を開催し、今後の方針について検討し

た。なお、この委員会において、木下常務理事を
委員長に、廣中常務理事を副委員長に選出した。

(木下)

2 保険料減額免除について

52 件申請。承認。

互助会理事会

第 3 回

1 互助会費の免除について

5 件申請。承認。

2 傷病見舞金支給申請について

1 件申請。承認。

母体保護法指定審査委員会

1 設備指定申請について

1 件申請。承認。

お知らせ

施設の賃貸契約物件について

所在地 岩国市中津町 1-20-28

(旧・湊谷眼科医院)

医院・付属施設の概況

建物 約 90 坪 鉄骨コンクリート 2 階建

1 階 (45 坪) : 受付事務室・待合室・診察室・検査室・検査設備

2 階 (45 坪) : 手術室・病室 4 室 (最大 7 人まで入院可)・浴室・看護婦待機当直室

駐車場 自院駐車場 7 台駐車可

現在賃借中の駐車場 6 台駐車可

その他 眼科に限らず何科でも可。

湊谷家に医師後継者はいない。

お問合せ先 岩国市医師会事務局

TEL 0827-21-6135 FAX 0827-22-9218

謹
弔

河野 憲二氏 徳山医師会

五月二十日、逝去されました。享年八十三歳。
つしんで哀悼の意を表します。

謹
弔

明石 和彦氏 下松医師会

五月二十一日、逝去されました。享年四十九歳。
つしんで哀悼の意を表します。

第 15 回大島医学会を終えて

準備委員長 吉岡 嘉明

と き 5 月 12 日 (日)
 ところ 大島町文化センター
 主 催 大島郡医師会

第 15 回大島医学会は、緑はえ、風薫る五月晴れの中、開催されました。当日は県医師会生涯研修セミナーと重なり、出席者の数が危惧されましたが、県医師会から廣中弘先生をはじめ、郡内外からも多数のご来賓のご臨席を賜り、私の心配が杞憂に終わったのは何よりでした。

開会のあいさつの中で、本学会長かつ大島郡医師会会長 嶋元貢先生は、大島医学会は“世界で一番小さい医学会”だとお話しになりました。しかし今では、その学会も 15 回目を迎え、歴史の重み、内容の充実と言うまでもなく、発表者、参加者は多岐多様にわたり、まさしく職種を越えた保健・福祉・医療の連携統一の実践であり、全国に向けての発信であると誇らしくさえ思っているところです。

さらに驚いたことがあります。それは、一般演題の大半が従来のスライドに代わり、液晶プロジェクター画面を用いたパワーポイントで発表されたことです。古い世代の者にとっては、演者の意気込みと、時代に即応した感覚に圧倒されたものです。

引き続き、“星と遊ぼう”と題して広島市こども文化科学館専門員加藤一孝先生による特別講演が行われました。



本学会の特別講演は、今では郡民公開講座として定着し、地域にも広く親しまれ、当日も宇宙に興味を抱く子供連れの参加も見られました。

日頃、夜空を仰ぎ見る機会も少なく、したがって宇宙に関する知識もつたない私でしたが、この日ばかりは少年のころにかえり、夜空をこがす流星群の輝きや、日食・月食といった宇宙の神秘・ロマンに想いを馳せたひとときでした。

特別講演終了後は、近隣の先生方、郡医師会会員、並びに当日お世話いただいた多数の人たちを交えて懇親会が行われました。そこでは、年齢や職業をこえ、肩の凝らない雰囲気の中で、明日に向けての住民の健康や介護保険の浸透について熱い議論が交換されました。

私にとって、五月の長くて短い一日でした。

ご 案 内

岩国市医師会学術講演会

と き 6 月 18 日 (火) 午後 7 時～
 ところ 岩国市医師会館

岩国市麻里布町 7 丁目 12-8 TEL0827-21-61353

演 題 「臨床における効果的な禁煙指導の進め方」
 奈良女子大学教授 / 京都大学医学部予防医療クリニック 高橋 裕子

※日本医師会生涯教育制度による単位（5 単位）が取得できます。

主 催 岩国市医師会

春季県ドクターズテニス大会

梅雨の走りの雨日和が一段落した 5 月 19 日（日）に山口市の世話で、春季ドクターテニス大会を山口サングリーンテニスで開催いたしました。結果は、A クラスは赤川悦夫・森田理生先生ペアの圧勝。B クラスは、安保福市・奥園達也先生ペアが貫禄で優勝。女性組は、赤川先生夫人・根来桂子先生ペアが日頃の実力を発揮されて優勝でした。

今回、新しく山口市の淵上泰敬先生と田村博子先生が加わり、平均年齢を下げフレッシュな風を吹き込んでいただきました。また、8 名の女性が参加されて女性だけのクラスが組めたこともよい親睦になりました。今後もテニスを楽しみたいと思われましたら躊躇なくどなたでも参加していただきたいものです。次回の秋季大会は 11 月に下関市で行われる予定になっています。

懇親会では「柏木先生が 2 位となり、初めて奥さんよりよい成績を取られて素直に喜びを表されていた」「森田先生は駄洒落の名手である??」「赤川先生の奥様へのやさしい配慮・・・しっかり夫婦で 1 位の賞品も獲得されて・・・さすが年季が入っていると・・・」。がやがやと賑やかに時間を過ごして終わりました。

山口市 藤山 哲男



結 果

男子 A	赤川 森田	古谷 鈴木	棕梨 湧田	宇野 本永	柏木 藤山	順位
赤川 森田		6-2	6-1	6-2	6-1	1
古谷 鈴木	2-6		5-6	6-1	5-6	4
棕梨 湧田	1-6	6-5		6-3	3-6	3
宇野 本永	2-6	1-6	3-6		6-4	5
柏木 藤山	1-6	6-5	6-3	4-6		2

女性	湧田 池田	赤川 根来	森田 田村	柏木 藤山	順位
湧田 池田		2-6	6-1	6-1	2
赤川 根来	6-2		6-4	6-3	1
森田 田村	1-6	4-6		3-6	4
柏木 藤山	1-6	3-6	6-3		3

男子 B	倉富 淵上	太田 野村	安保 奥園	小田 上田	内本 伊藤	順位
倉富 淵上		2-6	3-6	5-6	0-6	5
太田 野村	6-2		4-6	6-3	1-6	3
安保 奥園	6-3	6-4		6-2	6-5	1
小田 上田	6-5	3-6	2-6		5-6	4
内本 伊藤	6-0	6-1	5-6	6-5		2

日 医 FAX ニ ュ ー ス

5 月 21 日

- 医療分野への株式会社参入を再度明記へ
- 年金制度改革論議を開始
- 入院判定の裁判官関与に否定的見解
- 「一般病床」届け出が 10 万床突破
- 重症外傷患者死亡例の約 4 割が救命可能
- 診療報酬改定内容を厳しく批判

5 月 24 日

- 医療制度改革関連法案の成立が最優先
- 「3 割負担、保険料 10%」を維持 坂口厚労相
- 手術料の減算等見直しを要求
- 長期入院の要因には医療必要度の上昇も
- 医療保険制度検討会議
- 「日医総研日医 I T 認定制度」を創設
- 女性会員の医師会活動への積極参加を要請
- ワールドカップ対策本部を設置

5 月 28 日

- 国民 1 人当たり患者負担割合は 17 ～ 18%
- 診療報酬改定見直し要望 医科 9 項目
- 2000 年度の老人医療費過誤調整額は 1083 億円
- 再診料の月内通減制の取り扱い等で疑義解釈
- 混合診療を視野に入れた提案も

ご案内

学 術 講 演 会

と き 6 月 27 日（木）午後 7 時～
と ころ アドホックホテル丸福 2F「富士の間」

演 題 「高齢者の腰痛 ～特に腰部脊柱管狭窄症の病態について～」
山口大学医学部整形外科助教授 田口 敏彦

※日本医師会生涯教育制度による単位（5 単位）が取得できます。

主 催 徳山医師会

第 77 回山口県医師会生涯研修セミナー
平成 14 年度第 4 回日本医師会生涯教育講座
山口県医師会介護保険講習会
診療情報の提供の環境整備に関する研修会
山口県エイズ対策研修会

と き 7 月 14 日（日）午前 10 時～午後 4 時

ところ 山口県総合保健会館 2 F 多目的ホール（山口市大字吉敷 3325-1）

介護保険講習（10:00～11:00）

介護保険と地域ケアマネジメントについて

尾道市医師会長 片 山 壽

診療情報の提供の環境整備に関する研修（11:00～12:30）

診療情報提供と医療安全管理体制の確立 ―医療安全管理体制構築と運用方法―

安田火災海上保険株式会社山口支店サービスセンター課長 堀 内 稔 弘

エイズ対策研修（13:30～16:00）

山口県におけるエイズ対策の現状について（13:30～14:00）

山口県健康福祉部健康増進課長 前 田 光 哉

患者さんにエイズの検査を勧めるとき（14:00～16:00）

広島大学医学部附属病院エイズ医療対策室長 高 田 昇

山口大学医学部保健学科教授 山 田 治

※ お申し込みは郡市医師会を通じてお願いします。

※ 「診療情報の提供の環境整備に関する研修」は、医師のほか医療機関所属の方の受講を歓迎いたします。

病院・有床診療所では、医療安全管理体制が整備されていない場合、10 月 1 日から診療報酬が減算されることになっています。それに先だって体制整備の研修を取り上げましたので、ぜひご聴講ください。

また、同研修を受講される方はテキスト代 2,000 円を当日受付にていただきます。

【取得できる単位】

日医生涯教育制度 5 単位

日医認定産業医研修単位

診療情報の提供の環境整備に関する研修：基礎後期又は生涯専門 1.5 単位

山口県エイズ対策研修：基礎実地又は生涯実地 2.5 単位